

一年の文字の勉強は生涯のたから

● まず、かな文字で日本語のすばらしさを ●



高橋 武昌

(1) 文字と出会う周辺

幼児の段階で読みのできる子80%、書くことのできる子45%という状況である。絵本、テレビでおぼえる例が多く、その筆順を教えられることはすくない。保育園や幼稚園では、入学の準備で、文字あそびのワークのようなもので一通りかな文字を教えているところが多い。ここで問題なのは、子どもが書きたい読みたいたいという要求が高くなっているとき十分な大人側の対応がないこと、筆順など自分流でおぼえてしまいそれがくせになって尾をひいていること、「ほーき」は「ほうき」なのだが発声上「ほおき」になるのでどう書くのか分からないこと、具体物と対応して単語をおぼえるわけなので深い単語の認識とその発展を期待できないこと等である。幼稚園指導要領などでも、教えないで「文字化のための体験や表現を大切にするとある。名まえだけ書ければいいと言われる小学校に入学してくるわけだが…。

(2) 教師が何をどう教えるか

教科書の教え方の基本は、ことばあそび、文つくりの上にたって空を「そら」という二つの文字だから、「そら」をおぼえよう！という指導である。いわゆる語形法といって、例えば家中のものの単語をおぼえさせるとき、「れいぞうこ」「ほん」「でんき」「てーぶる」と単語の札をはってその文字の形でおぼえさせる方法で、大変乱暴な無系統な方法だと思う。したがって、濁音、長音、促音、拗長音の文字を教えるとき系統性がないからいわゆるつめこみになるし、かな文字では、一時間に「あいいうえお」の五文字をいっきよに教えてもさしつかえないのである。

教師がどうしようかまよっているとき、親は手をだす術もなく、習ってきた文字・単語・表現をくり返して子どもに教えるしかない。

私たちがめざす文字指導はこうである。



㊦ かな文字指導

話していることばから、単語を認識させる

たんぽぽ さくら もり き…と音で単語を構成していることを知らせる。音の数をきちんと数えられることが大切で「ほうき」は「ほうき」の二音でできていることが確認される（長音のところまで）

では、かな文字の実際は、校庭からとってきた「たんぽぽ」を一本ずつ子どもに手わたす。そして、たんぽぽをけんきゅうして様々な発言を促す（具体物で始めること）この「たんぽぽ」は四つの音でできていることを確認して今回は「ん」の音の字をべんきょうすると告げる。「ん」は鼻から音がぬけることによりできることをしらす、鼻をおさえて「ん」と発音しようとしても無理だと分かる。さて、「ん」は正しく書くところになると教えるのだが、今までおぼえてきた「ん」の字は江南小学校の「ん」でないことを強調する。次に「ん」のつく具体物を示し「ん」の存在を広めるのである。「ぎんなん」（一語に二つのん）「べん」（下にくる）「はんこ」（まん中にくる）…みんな具体物で確認するが、次に、正しい文字の書き方の練習に入る。

以上のようにして45文字全部を一時間ずつ（時には二つの文字を）教えていく。「の」「と」などの助詞も

そのつど教えていく。かな文字を全部教えたなら、きちんと、五十音表にして子どもにおぼえさせることである。かけ算の九九は、お経のようにきちんと全員がおぼえるまでやるが、同様五十音表もそうしなくてはならない。段と行の意識もきちんと教えると正しい五十音表の構成を知っていく。

あ段 い段 う段 え段 お段

あ	い	う	え	お
か	き	く	け	こ
さ	し	す	せ	そ
た	ち	つ	て	と
な	に	ぬ	ね	の
は	ひ	ふ	へ	ほ
ま	み	む	め	も
や	い	ゆ	え	よ
ら	り	る	れ	ろ
わ	わ	（い）	（う）	（え）（お）

ん

子どもたちは、きちんと言えるだろうか。どの行の文字は、口の形はどうなるのか。段の音と文字さがしや右の文字で多くの音節を表していること等を知ることが大事である。なお、この五十音表をどのようにしておぼえさせたらいいだろう。やっぱり歌にしたらいい



いのではないかな。

あひるの赤ちゃん あいうえお
かきのみくりのみ かきくけこ
ささのはさらさら さしすせそ
たいこをたたいて たちつてと
.....

かつて教育出版「こくご一年生」にあったものを私は使っている。小学校一年生の教育で五十音表の指導が不十分に思えてならない。また、次の段階の長音指導、拗音（拗長音）の指導では、どうしても、五十音表の構成が分らないとうまくすすまない。

① 濁音の指導

五十音表（濁音）の学習がおわると、それと対比しながら濁音の学習に入るのだが、この学習で一段と子どもの文字と音の関連と使用範囲が拡大されていく。



上の二枚の絵を示して何という単語かあてさせる。

「かき」と「かぎ」の音になるが、どこがにているか話しあわせると絵では全く関係ないが、いい方では、「か」は両方使われているし、「き」と「ぎ」（濁点）がついていると誰もが言う。「」（濁点）がつくだけで全然ちがう単語になってしまうドラマを子どもに感じとら

せることが大事である。

25の濁点をつけた文字を、ものの名まえ等からきちんと教えていくことが大切である。

② 長音の指導



おばさん おばーさん
右のように「ば」の音が短音が長音をたしかめさせ、下のように「ば」をのぼす音を長音といい「ー」のかわりに「あいう...」などを入れて表すことを教える。

「あだん」の長音は「あ」を入れてのばす
かあさん なあに まあじゃん

「いだん」の長音は「い」を入れてのばす
にいさん ひいらぎ ちいず

「うだん」の長音は「う」を入れてのばす
くうき すうじ つうしん ゆうれい

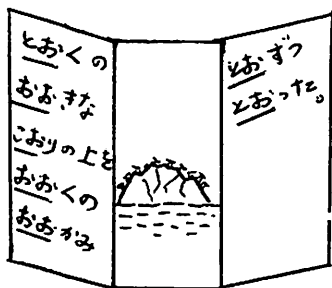
「えだん」の長音は「え」を入れてのばす
けいき ていでん へいたい めいれい

「おだん」の長音は「う」を入れてのばす



こうもり　とうだい　ほうそう　ようふく

ところが「えだん」「おだん」には例外があるのでやっかいである。だから、この二つの段の長音は例外をき



えるようにおぼえるといいね。

他にほのお　ほおずき　おおう　おおよそ等ある。

㊦促音（つまる音）㊧拗音（きや　きゅきよ）

㊨拗長音（きやあきゆうきよう）等とつづく。

(3) 文字周辺の一年生の学習

かな文字を具体物と対置しながら一つ一つの音を手がかりにしながら豊かに身につけると共に、日本語の表現のおもしろさ、楽しさ、すばらしさを感じとらせ

ちゃんと教えるべきであって、この指導をやっておかないと生涯知らないで苦労する。

「えだんの例外」おねえさん　そうねえ

「おだんの例外」

1から7までをお経のようにきちんと

たい。

文を綴る仕事は、この度の一年生では四月より始めた。先生にお手紙をくれると、子どもに教師の方から手紙を返してやるというものだ。意外に効果があり、文字指導・助詞の指導を身につけていった足あとがはっきり子どもの手紙に表われてくる。

読み方指導は急がず、じっくりとすすめる（九月以後くらいに）読書の指導も欠かせない。毎日絵本の読みかせをしてあげて、絵本の楽しさ、耳からの読書を重視していく。一年生で二百冊近くの本を読んでもあげた。一年生後半になると「くまの子ウーフ」「猫は生きている」など何回かに分けて読むことにもなれてきた。一年の文字指導でまず学ぶことの深さを感じとらせることは教師の力にかかっている。

（たかはしたけまさ・江南小学校）

